【用語】吾妻郡大笹村・干俣村―吾妻郡嬬恋村　同断―同前、同様　大戸村―吾妻郡吾妻町　浅間山焼―浅間山の大噴火　奇特―行為などすぐれて賞すべきこと、殊勝　原町―吾妻郡吾妻町　水野出羽守―幕府老中、水野忠友　原田清右衛門―幕府代官

【解説】天明三年（一七八三）七月八日午前十時頃、前々から噴火をしていた浅間山が、天地も崩れるかのような轟音とともに大爆発した。それと同時に火口から大量の溶岩や火砕流が流れ出し、たちまちのうちに鎌原村（嬬恋村）の集落を埋没させた。そして吾妻川に流れ込んだ火砕流は、岩・石・砂などとともに一気に押し下り、両岸の耕地や村落を泥流に巻き込んだ。この浅間焼けによって上野国のほぼ全域に大きな被害が生じたが、とりわけ惨状を呈したのが吾妻郡の村々であった。この被災地で献身的な救助活動を行った人々のなかに、大笹村名主の長左衛門（黒岩姓）らがいた。この文書は、その功労者に対する褒美申渡し状である。

長左衛門は、小兵衛（干川姓）とともに、家をなくした人々のために応急の小屋を作り、集団で住まわせ、日々の食糧を提供した。さらに鎌原村の生存者のうち親を亡くした子と、子をなくした親で養子縁組をさせ、あるいは夫を失った妻と、妻を亡くした夫を結婚させるなどして、村の復興に尽力した。大戸村の安左衛門(加部姓)、原町の五郎兵衛・六兵衛も被災者の救助に多大の私財を提供して、人心の安定に寄与した。そのため幕府は、代官原田清右衛門の上申によって彼らを表彰し、銀一〇枚あるいは三枚を与え、一代帯刀と永代苗字を許したのである。